

バス事業の現況と インバウンド振興の取組について

平成30年7月11日



公益社団法人 日本バス協会

1. バス事業の現況

陸上交通機関別輸送人員

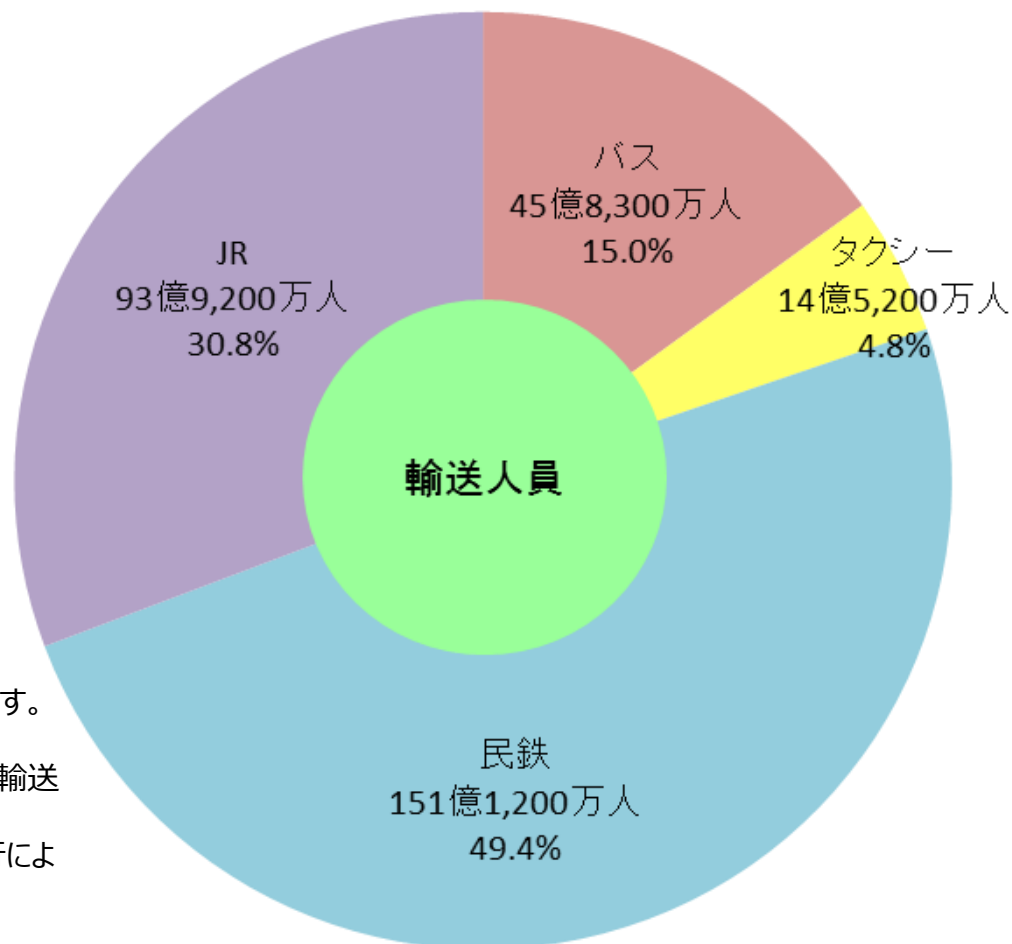
合計
305億3,900万人
(平成28年度)

| | |
|----|------------|
| 乗合 | 42億8,900万人 |
| 貸切 | 2億9,400万人 |
| 計 | 45億8,300万人 |

※乗合バス輸送人員のうち、
高速バス1億1,570万人

バスは平成28年度を通じて45億8,300万人を輸送しています。
これは陸上交通機関の総旅客輸送人員（305億人）の
15.0%を占めており、1日当たりの平均では1,250万人余りを輸送
しています。

大都市部での需要は堅調ですが、地方部では過疎化の進行によ
り減少傾向が続いています。



乗合バス事業の現況

乗合バス

※数字で見る自動車2018及び国交省資料より

●事業者数

2,267事業者(うち 公営25)

※上限運賃認可対象事業者は467社

※平成18年10月に施行された改正道路運送法に伴い、乗合バスとみなされた事業者を含む。

●従業員数

110,128人(うち 運転者83,537人)

●車両数

60,429両

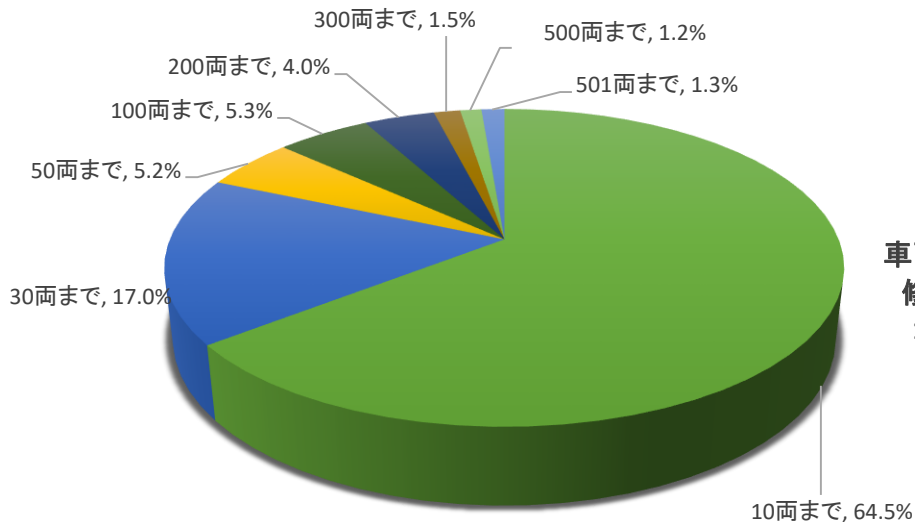
●輸送人員

42億8,900万人(うち 高速バス輸送人員 1億1,570万人)

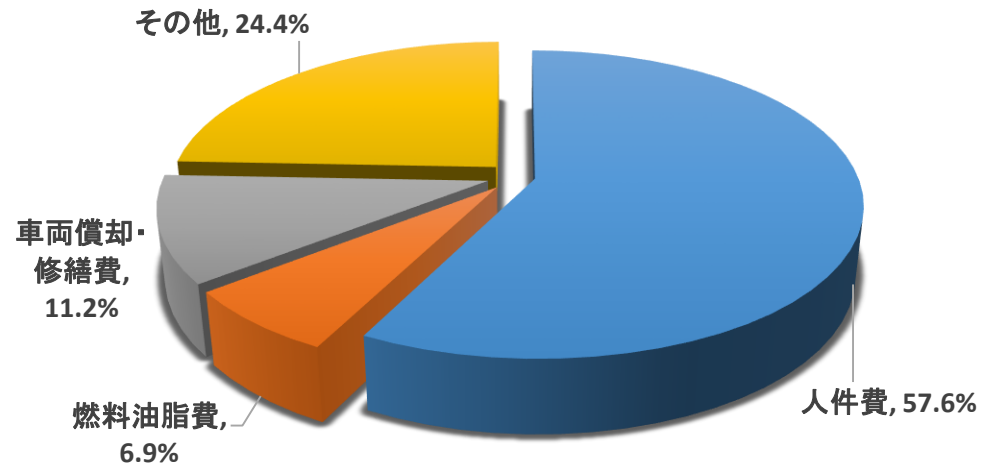
●営業収入

9,664億4,000万円 ※国内航空(約9,500万人)を上回る

バス事業者の規模(乗合)



原価構成(乗合バス)



乗合バス事業の収支状況（平成28年度）

※公営事業者を含む。高速バスを除く。
 （国土交通省資料より）
 （保有車両数乗合車両30両以上の238者集計分）

【収支状況】

| | 大都市部 | その他地域 | 合計 |
|-----------|--------|-------|-------|
| 輸送人員（百万人） | 2,653 | 1,322 | 3,975 |
| 収入（億円） | 4,491 | 2,756 | 7,247 |
| 支出（億円） | 4,354 | 3,154 | 7,508 |
| 損益（億円） | 137 | △ 398 | △ 261 |
| 経常収支率（%） | 103.1% | 87.4% | 96.5% |

【黒字・赤字事業者数】

| | 大都市部 | その他地域 | 合計 |
|-------|------|-------|-----|
| 黒字（者） | 52 | 29 | 81 |
| 赤字（者） | 21 | 136 | 157 |
| 合計（者） | 73 | 165 | 238 |

大都市
赤字29%

その他地域
赤字82%

合計
赤字66%

「大都市部」とは……

千葉県、東京都、埼玉県、神奈川県、愛知県、三重県、岐阜県、大阪府、京都府（京都市を含む大阪府に隣接する地域）、兵庫県（神戸市及び明石市を含む大阪府に隣接する地域）

全国のバス事業者の約7割が赤字

※大都市を除く地域では、8割を超える事業者が赤字

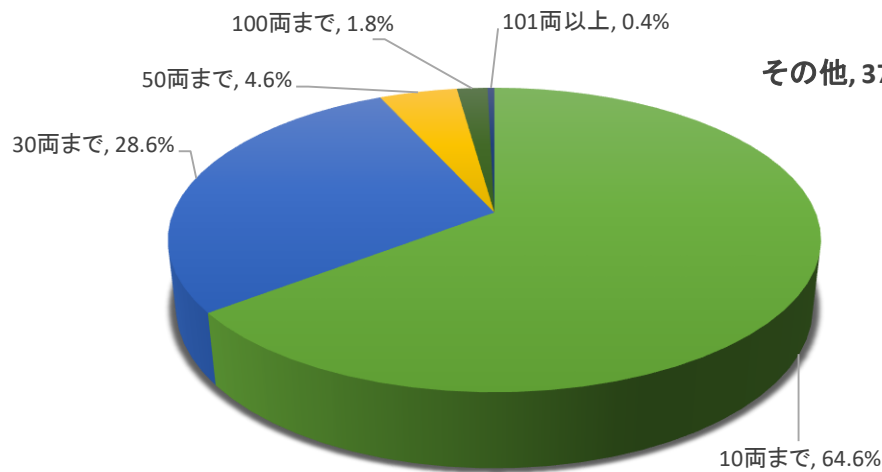
貸切バス事業の現況

貸切バス

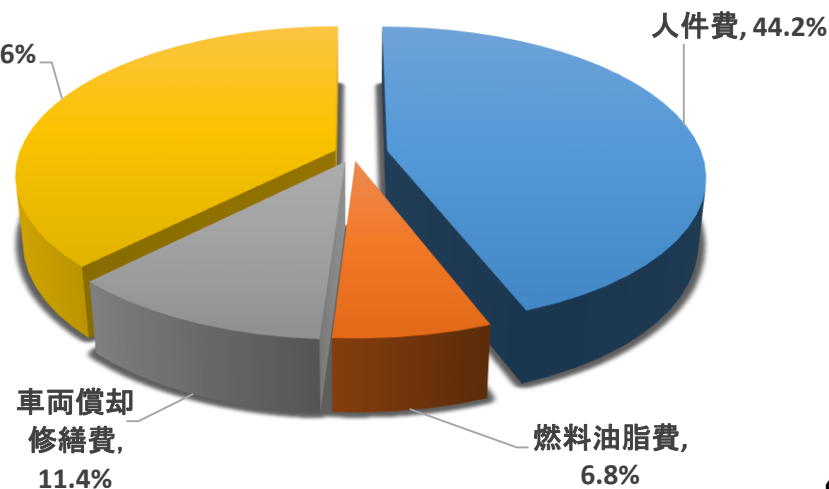
※数字で見る自動車2018及び日本バス協会資料より

| | |
|-------|------------------------|
| ●事業者数 | 4,524事業者(うち 公営 17) |
| ●従業員数 | 73,253人(うち 運転者49,348人) |
| ●車両数 | 51,539両 |
| ●輸送人員 | 2億9,400万人 |
| ●営業収入 | 5,188億6,500万円 |

バス事業者の規模(貸切)



原価構成(貸切バス)



2.インバウンド振興（日本バス協会策定のサービス向上アクションプラン）

日本バス協会は、訪日外国人旅行者の利便の一層の向上とこれによる旅行者の増加を目指し、平成30年2月19日、以下の内容のバスサービス向上アクションプランを策定しました。

会員事業者は、それぞれ、訪日外国人旅行者の利用状況などの事業実態に応じ、順次このプランの実現に向けて、サービス向上に取り組めます。また、関係省庁には、このための予算及び制度面での支援をお願いしています。

<項目>

- 観光需要を取り込んだ便利で利用しやすいバスサービスの提供
- 多言語での案内の推進
- Wi-Fiの整備推進
- 貸切バスの輸送力強化、サービス改善

○観光需要を取り込んだ便利で利用しやすいバスサービスの提供(その1)

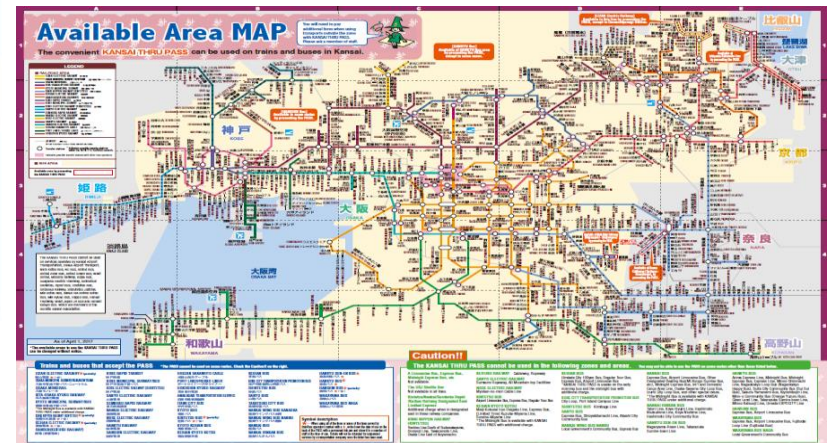
① 鉄道と路線バスの共通乗車券の販売

○鉄道とバスの共通企画乗車券の導入を推進するなど、訪日外国人旅行者にとってこれまで以上に使い勝手の良い乗車券の導入を目指す。

例) 「Greater Tokyo Pass」平成30年4月1日発売、バス52社局+鉄道12社局が参加



”Kansai Thru Pass”



○観光需要を取り込んだ便利で利用しやすいバスサービスの提供(その2)

②訪日外国人旅行者の観光需要を取り込んだ路線バスの推進

○DMOと連携した路線バスルートの設定と企画乗車券等による利用促進に努める。



例)「昇竜道」と連携した、“Central Japan Travel Card”
平成30年2月1日～3月20日



例)外国人旅行者が一般路線バスを自由に乗降できる“TOKUSHIMA BUS PASS”

平成30年7月1日～
(地域間幹線系統等における生産性向上の取組み)

○観光需要を取り込んだ便利で利用しやすいバスサービスの提供(その3)

③ 高速バス路線の充実と相互利用可能な共通乗車券の販売

○主要都市から直接観光地に行ける高速バス路線の充実に努める。また、各地域ブロックでの高速バス共通乗車券の販売を促進するとともに、2018年度をめぐりに、全国をカバーする高速バスの共通乗車券の対象ルートへの拡充と販売を促進する。

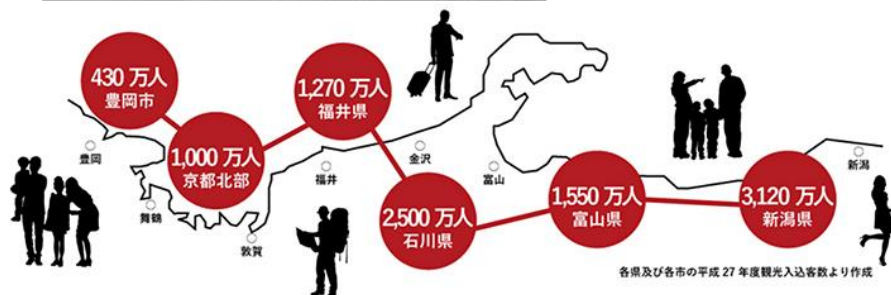
<高速バス共通乗車券>

- [北海道] Inter City Bus Pass
- [中部] 昇龍道フリーパス
- [東北] TOHOKU HIGHWAY BUS TICKET
- [四国] SHIKOKU HIGHWAY 3 DAY RIDER
- [九州] SUNQパス
- [全国] Japan Bus Pass



WILLERが地元自治体と連携して取り組む「日本海縦断観光ルート・プロジェクト」

例)九州内の高速バスフリー乗車券「SUNQパス」で、南九州エリア版を4月1日から新たに発売



○観光需要を取り込んだ便利で利用しやすいバスサービスの提供(その4)

④ 魅力ある定期観光バスの振興等

- 訪日外国人旅行者向けの定期観光バスのルートを充実する。
- 魅力あるコース設定に合わせ、オープントップの定期観光バス、水陸両用バス等の運行による賑わいの創出に努める。

東京で現在運行中のオープン
トップ定期観光バス(乗降自由
な周遊バス)



例) 乗降自由な周遊型観光
バスの新会社が設立され、10
月中旬に東京の新規エリア、来
年4月から京都で運行予定

GPSにより、バスの走行に合
わせて8か国語で案内を行う
定期観光バス



○多言語での案内の推進(その1)

①バスターミナル、バス停留所、バス車両、観光地案内板等における多言語表示の推進

○「外客容易化法」の告示で定められた路線(101路線)について、2018年度中に外国語での案内を100%実施する。

○上記以外についても、訪日外国人旅行者の利用が多い路線については、2019年度中の外国語での案内を目指す。(外国語表記のガイドラインは作成済み)

※「広域観光周遊ルート」上にあるバス路線(112路線)を中心に推進

○訪日外国人旅行者の利用が多いバスターミナルにおいて、2018年度中にVoiceTra等翻訳アプリを内蔵したタブレット等を配備する。またデジタルサイネージ等の整備を進める。

○各社、HP等における多言語での情報提供の充実を図る。

例)京成バスでは全運転手を対象とした英会話訓練や、スマホを使用した通訳サービス等を推進。今年度中の完了を目指す。

バス車内での多言語での停留所名案内



【英語】

【韓国語】



○多言語での案内の推進(その2)

② J N T O、旅行会社等と連携した多言語でのバスサービスの案内と海外での認知度向上

○経路検索システムアプリの多言語化と海外における認知度向上について、関係者との連携を進める。また、高速バスの予約サイトについても普及を促進する。

例) NAVITIMEの経路検索サービスは、ほぼ全ての路線バスに対応済み(日・英)。

高速バスの大手予約サイトは日・英・中等対応済み。



| ← 時刻表 | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 池田駅前 | |
| 番谷線 (出合経由) (四国交通) for 出合 | |
| 平日 | 週六 休日 |
| 12 | |
| 12:45 | 路線バス [路線バス] 四国交通 番谷線 (出合経由) to 番谷 |
| 16 | |
| 16:36 | 路線バス [路線バス] 四国交通 番谷線 (出合経由) to 出合 |
| 17 | |
| 17:46 | 路線バス [路線バス] 四国交通 番谷線 (出合経由) to 出合 |

時刻表画面 (中国語 繁体字)

出典: (株)ナビタイムジャパンプレスリリース

③ バス系統ナンバリング

○訪日外国人旅行者の利用が多い交通結節点から観光地へのバス路線等について、どのバスに乗れば良いのかが一目で分かるようにするため、国土交通省において路線バスの運行系統のナンバリング方法等に関するガイドラインを2018年夏までに作成・公表するとともに、各地域におけるナンバリングを推進する。



○Wi-Fiの整備推進

Wi-Fiの整備

○訪日外国人旅行者の利用が多いバスターミナルや主要国際空港のアクセスバス及び長距離高速バス路線について、2018年度中に100%の設置を目指す。(主要国際空港: 成田・関空・羽田・福岡・那覇・中部・新千歳)

○上記以外についても、訪日外国人旅行者の利用が多い路線について2019年度中の設置を目指す。

例)京急バス・名鉄バス等で、高速全路線への整備が進行中。

※平成29年12月現在の設置率: 空港アクセスバス: 47%、高速バス39%



○貸切バスの輸送力強化、サービス改善

①輸送力の確保

○クルーズ船の入港等に対応して、2017年度に引続き貸切バスの輸送力を確保する。(大型クルーズ船1隻⇒貸切バス80台)



【鳥取県境港港】

②貸切バス事業者によるアライアンス

○2018年度を目途に、貸切バス事業者が連携し、海外旅行会社等にインバウンド向け広域周遊バス旅行商品を開発・販売する。

例) 全国9事業者で設立した”Japan Coast Alliance”



③ドライバー融通支援

○2018年度中に、地域における貸切バスの閑散期と繁忙期の差を活用し、ドライバーを融通する仕組みについて実証実験を行い、制度の整備を図る。

